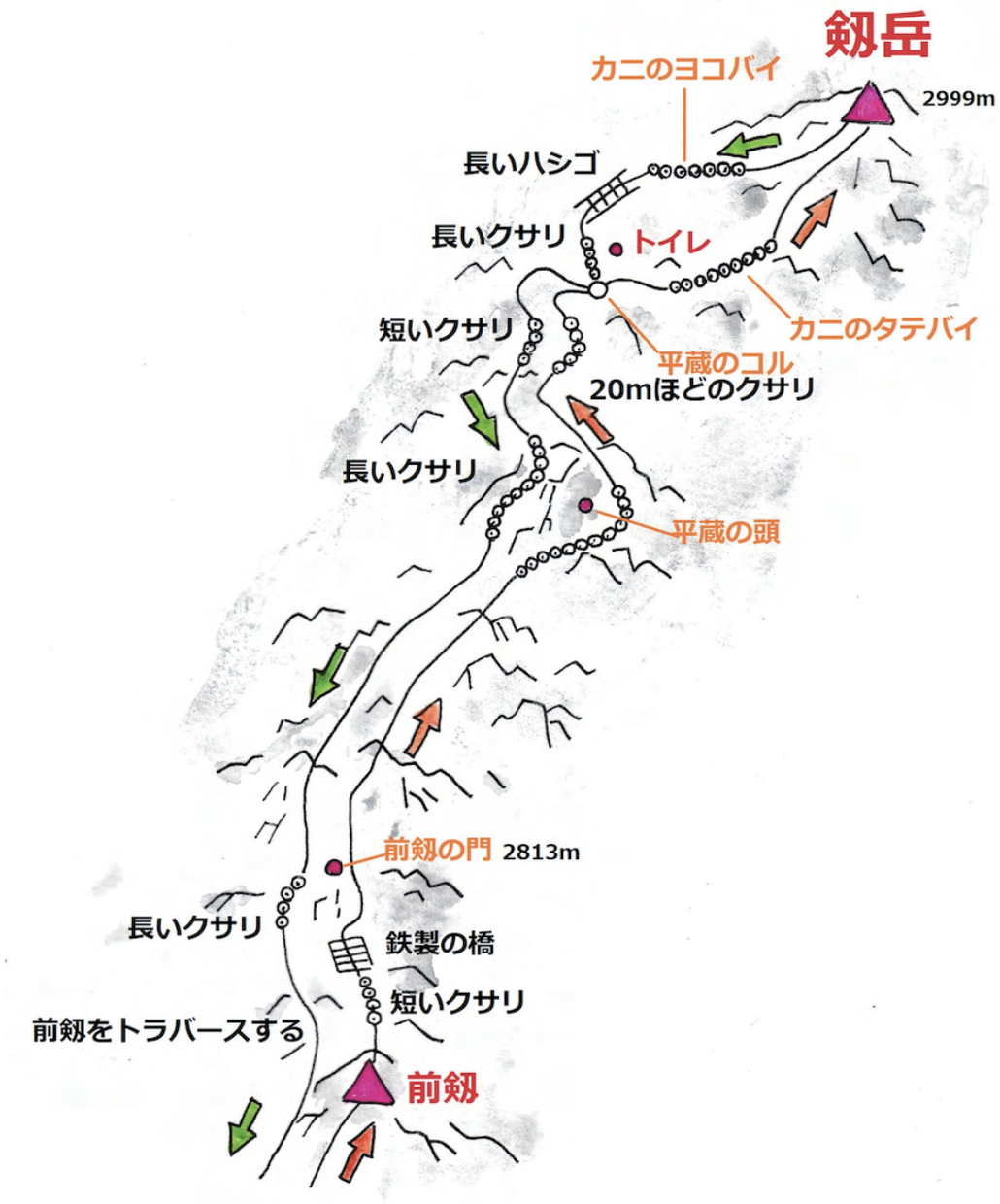
剣岳

別山尾根
難所詳細ルートガイド

剣山荘の脇から登山道に入ります。小さくジグザグを繰り返して登ります。
着実に高度を稼いでいることが実感できるはずです。一服剱で小休止したらハイマツの中を下ります。
すぐに武蔵のコルに到着します。

ここから岩場を登ります。ペンキマークを頼りに登りましょう。
その後、長いクサリが現れますが、上りなので頼らなくても登ることができます。ここを登れば、前剱の稜線に乗ったことになります。そして、ここから上りと下りのルートが別になります。

剱岳



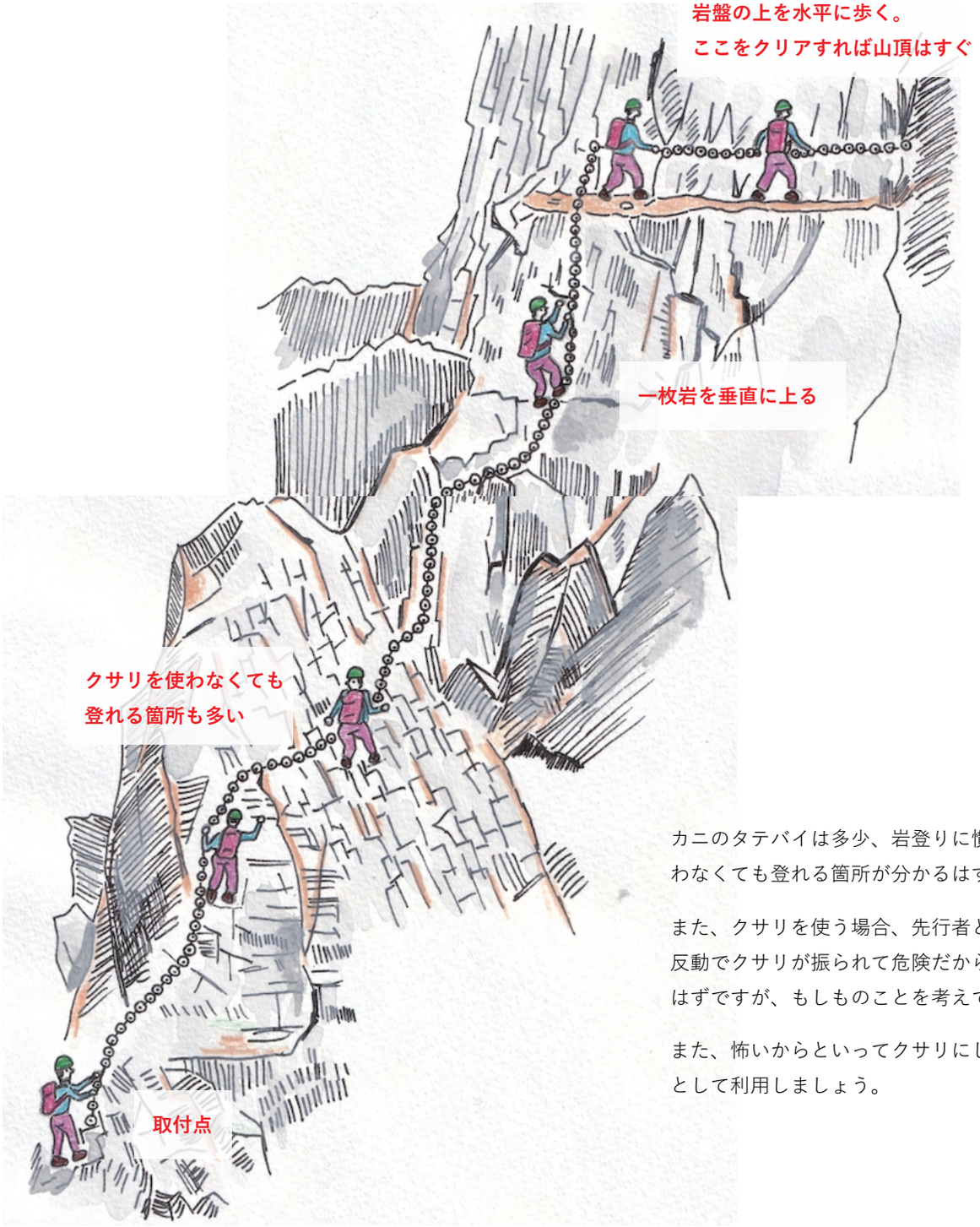
前剱の山頂を通過しますが、眼前に圧倒的なスケールで剱岳が迫ってきます。往復で 13 ヶ所ほどのクサリ場が登場します。気持ちを引き締めて歩きましょう。前剱の先でクサリを使って数m下ります。
そして鉄製の小さな橋を渡って大岩の斜面を斜上します。この岩のピークから長いクサリ場を下り、最低部から登り返します。その先にあるのがカニのタテバイです。垂直の岩壁にクサリが垂らされています。落ち着いて登れば問題はありません。岩場に慣れている人ならクサリに頼らなくても登ることができる箇所もあります。ここをクリアして、わずかに右へ行けば剱岳の山頂です。
剱岳の山頂は岩が堆積し、平坦な個所はほとんどありません。適当な場所で 360 度の展望を楽しみましょう。盛夏だと登山者が多いのでお互い譲り合うことも必要です。

下山は往路をわずかに戻り、剱岳で最も難所と呼べるカニのヨコバイに挑戦します。まず、岩の間に垂らされたクサリを頼りに下ります。カニのヨコバイ取付点で、後ろ向きの姿勢でクサリをしっかり握り、岩の窪みに右足の置く位置を探します。右足が固定されたら、その横に左足を置きます。そして左足を左の大岩に刻まれたコースに乗せます。クサリをしっかり持ち、右足を同じように引き寄せればヨコバイに乗ったことになります。
その後も下り専用の道を辿って行きますが、ヨコバイのように目視できない箇所はないのでスムーズに歩くことができるはずです。
前剱手前の長いクサリの上部にでます。剱岳の雄姿を脳裏に焼き付けたら往路を剣山荘まで下りましょう。

剣山荘を出発する時にトレッキングポールは置いていくようにしましょう。

剣　山　荘 → 00:30 → 一　服　剱 → 00:40 → 前　剱 → 00:30 → カニのタテバイ → 00:50 → 剱岳　山頂

※混雑状況で大きく変わります。また、下りも同程度の時間をみておく必要があります。

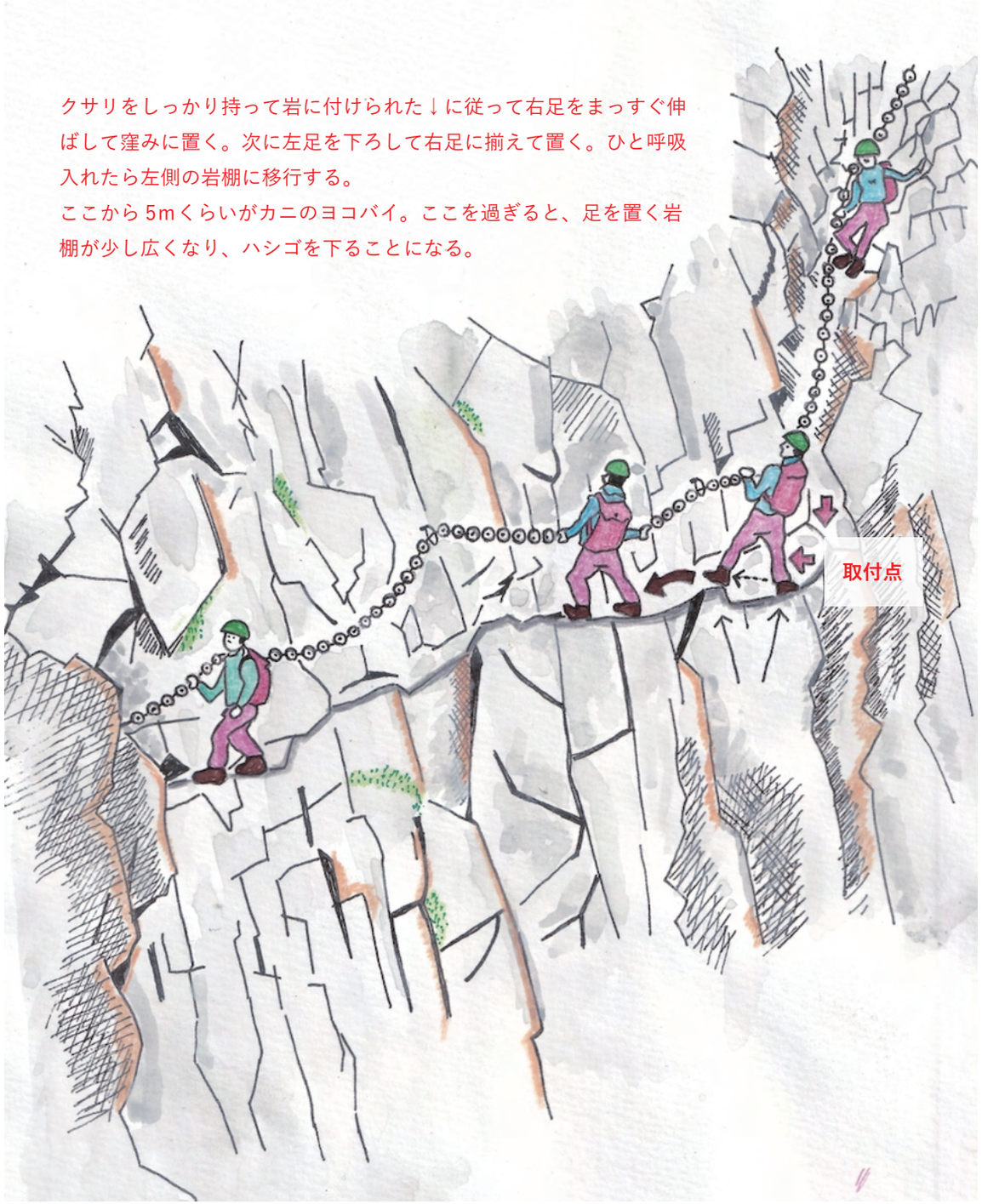


カニのヨコバイ取付点手前の下りです。このコースで最も緊張する場所ですが、クサリも足下もしっかりしています。怖い人にはハーネスの装着をおすすめします。

カニのタテバイは多少、岩登りに慣れている人なら苦労することなくクリアできるはずです。そうした人ならクサリを使わなくても登れる箇所が分かるはずですが、無理はしないこと。

また、クサリを使う場合、先行者との距離を詰めないように注意しましょう。先行者がクサリを引っ張たりすると、その反動でクサリが振られて危険だからです。ここに張られているクサリはしっかりしているので、それほど影響を受けないはずですが、もしものことを考えて少し距離を保ちましょう。

また、怖いからといってクサリにしがみつくのも危険です。登ることができなくなります。あくまでも歩くための補助具として利用しましょう。



カニのヨコバイでは、取付点までは岩と岩の間を下ることになります。取付点までは混むことが多いので焦らずに。ヨコバイ取付点の岩に下向きに赤い矢印が描かれています。その岩の横に上から見て右向きの赤い矢印が描かれています。ここで後ろ向きになり、クサリをしっかり持って右足を下向きの矢印が示す方向へ下ろすと岩の窪みが見つかります。そこに右足を置いたら、その脇に左足を下ろし、右足をそこに引き付けて左の岩棚に移ります。ここがヨコバイです。

その後はゆっくりクサリを頼りに左に進みます。グループの場合は上級者がヨコバイに先に取付き、後続者ひとりずつに右足の置く位置を指示して、ヨコバイに移る時に自分の体の前を通過させるようにすれば安全に通過できるはずです。また、上級者がロープを使って上部からヨコバイに移る人を確保する方法もあります。さらに全員がハーネスを装着して、クサリにカラビナを着けて自ら体を確保する方法もありますが、使い慣れていない人だと多少時間がかかるかもしれません。

カニのヨコバイ取付点手前の下りです。このコースで最も緊張する場所ですが、クサリも足下もしっかりしています。怖い人にはハーネスの装着をおすすめします。